

JA全農 WEEKLY

4
5面

第3回和牛甲子園 総合評価最優秀に市来農芸高(鹿児島) (畜産総合対策部)

2面

九州ブロックで労働力支援協議会設立

(耕種総合対策部)



九州ブロックでの労働力支援の取り組み方針などを確認した協議会設立総会(2面)



山形県本部は、雪下・雪室で保管した野菜を「やまがた雪やさい」ブランドで出荷・販売(6面)



第3回和牛甲子園の総合評価部門、取組評価部門で最優秀賞に輝いた市来農芸高校(鹿児島)のメンバー(4-5面)

2 BB肥料普及拡大へ営業担当者会議 (耕種資材部)

国際植物防疫年オフィシャル
サポーターに認定(耕種資材部)

3 Aコープで恵方巻きのロス削減を 実践(くらし支援事業部)

滋賀県JA草津市米生産部会が
JGAP団体認証取得(滋賀県本部)

6 酪農現場で働く女性から学ぶ (酪農部・岩手県本部)

「やまがた雪やさい」取り組み本格化
(山形県本部)

「俺たちのれんこんまん」を開発
(茨城県本部)

7 JAズームイン(兵庫:JAみのり)

8 3月10、11日に第14回JAグループ 国産農畜産物商談会(営業開発部)

ラジオ番組「JA全農 COUNTDOWN
JAPAN」プレゼント(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介

大分県 産直の駅しもごう(下郷農協)

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

全農日本カーリング選手権で
「ニッポンの食」を提供(広報・調査部)

全農日本ミックスダブルスカーリング
選手権で国産農畜産物をPR
(広報・調査部)



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちら



九州ブロックで農業労働力支援協議会設立

企業と連携した作業受託等推進へ

耕種総合対策部

九州ブロックでの労働力支援の取り組み方針などを確認した設立総会



九州ブロックでの労働力支援の取り組み方針などを確認した設立総会

今後、他の地域でも順次ブロック協議会の立ち上げを進める予定です。

高齡化や後継者不足を背景に農業分野の労働力不足が深刻化する中、全農では地域農業の振興を軸とした労働力支援の具体化に乗り出しています。今回、九州での労働力支援に関するブロック協議会を設立しました。

全農は1月28日、九州・沖縄の農協、経済連、中央会、農林中央金庫およびパートナー企業である株式会社菜果野アグリなどを構成団体とする「九州ブロック労働力支援協議会」の設立総会を開きました。

コスト低減へ BB肥料普及拡大のキックオフ

初の営業担当者会議

耕種資材部



BB肥料の普及拡大へ協議する担当者ら

今年産水稻での施用試験を各県で着実に実施し、普及の足掛かりとするため、今年には営業会議を計4回開く他、先進県でのOJTも実施する予定です。

今回の営業会議は、BB肥料の製造工場を持たない県域の担当者を中心に、県農協・経済連・県本部・事業所などから合計63人が参加。参加者からは「ニーズに合わせて提案できるBB肥料の特徴を生かして生産者からの負託に応えたい」といった意欲的な意見が上がりました。

耕種資材部では、施用が1回で済むなど省力化に資する一発型肥料について、生産コストの低減が期待できるBB（バルクブレンド）肥料化を進める計画です。

全農は2月3日、初の「BB肥料普及担当者営業会議」を東京・大手町のJ.Aビルで開きました。

国際植物防疫年オフィシャルサポーターに認定

病害虫のまん延防止へ

耕種資材部



INTERNATIONAL YEAR OF PLANT HEALTH 2020

国際植物防疫年2020のロゴ

全農はオフィシャルサポーターとして、同省と協力して植物病害虫の侵入・まん延防止に積極的に取り組みます。

昨年海外飛来性イネウンカ類が多発し、新たにツマジロクサヨトウが国内に侵入するなど、注意を払うべき病害虫は増えつつあります。国連は植物病害虫のまん延防止に向けた取り組みの重要性に対する世界的な認識を高めるため、2020年を「国際植物防疫年」とすることを採択しました。これを受けて農水省は植物防疫の重要性の周知などに取り組む組織をオフィシャルサポーターとして認定しています。

全農は2月5日、農水省から国際植物防疫年2020(International Year of Plant Health 2020: IYPH2020)のオフィシャルサポーターに認定されました。



Aコープで恵方巻きのロスを削減

食品ロス削減プロジェクトに参画

くらし支援事業部



さまざまな恵方巻を販売した店頭(上)とロス削減に理解を求めるPOP

Aコープ6社は農水省が進める食品ロス削減プロジェクトに参画し、節分の「恵方巻」の廃棄の削減に取り組みました。

農水省は、2月3日の節分に合わせて需要が高まる「恵方巻き」について、小売事業者などに需要に見合った販売を呼び掛けて、ロスを削減するプロジェクトを実施しました。このプロジェクトに、全国Aコープ協同機構から(株)ホクレン商事、(株)Aコープ東北、(株)エコープ関東、(株)ジャコム石川、(株)エコープ近畿、(株)Aコープ九州が参画しました。

具体的には、予約販売の推進をはじめ

め前年の販売状況を踏まえた製造・販売計画の策定、売れ残りにくいハーフサイズ品の販売構成比の向上、お客さまの来店時間帯に応じた陳列量の調整などの取り組みを行いました。その結果、Aコープ6社合計で前年に比べて430万^円(販売金額74万円相当)のロスを削減することができました。店頭ではプロジェクトに関するPOPを掲示して、お客さまに理解を訴えながら、取り組みを展開しました。



信頼される産地づくりへJGAP団体認証取得

滋賀県JA草津市の米生産部会

滋賀県本部



JGAP団体認証を取得した生産者の皆さん

滋賀県JA草津市の担い手有志7人で行く米の生産部会「GOOD・GAP932部会」は、昨年11月29日付でJGAPの団体認証を取得しました。

部会では1等米の比率や食味値にこだわった生産を追求する中で、さらに「消費者から信頼される産地づくり」を進めようと、JGAP認証の取得に挑戦しました。

認証取得に向けた過程では、ルールの共有化やコミュニケーションといった現状の取り組みを生かし、生産者・JA・指導員・関係機関が一体となり取り組み、農場や施設の改善点を明確にすることができました。

今後、GAPを継続的に取り組むことで、経営面での成果につなげたいと考えています。



和牛甲子園

第3回和牛甲子園

総合評価部門の最優秀賞 市来農芸高校（鹿児島）に

30校の高校生牛乳が切磋琢磨

せつ さ たく ま

第3回和牛甲子園に出場した
「高校牛乳」の皆さん

JA全農は1月16、17日、第3回となる和牛甲子園を東京都内で開きました。和牛を肥育する全国の高校生、高校牛乳たちが、日々の肥育管理の取り組みや、育てた牛の肉質を競いました。前回は上回る17県30校が出場し、教員・生徒含め約160人が参加、44頭の牛が出品され、総合評価部門の最優秀賞には鹿児島県立市来農芸高等学校が初めて輝きました。【畜産総合対策部】

和牛甲子園は、①将来の担い手への支援・就農意欲の向上②将来の担い手のネットワーク創出・肥育技術の向上——を目的としており、日々の肥育管理の取り組みについて発表する「取組評価部門」と、育てた牛の肉質を競う「枝肉評価部門」からなります。

両部門を合わせた「総合評価部門」で最優秀賞に輝いた市来農芸高等学校は、取組評価部門でも最優秀賞を獲得。牛と人に優しい



開会式で代表して選手宣誓する
鹿屋農業高校（鹿児島）の生徒
たち



褒賞式であいさつする農水省生産局
畜産部の渡邊毅部長。第2回に続き
農林水産省に後援をいただき、褒賞
もいただきました



学校交流会では、お肉クイズ大会などで盛り上がり仲を深めました

第3回和牛甲子園の結果

総合評価部門

| 褒賞 | 高校名 |
|----------|--------------------|
| 最優秀賞(1校) | 鹿児島県立市来農芸高等学校【初優勝】 |

取組評価部門 (優秀賞、優良賞に序列はなく、体験発表順に記載)

| 褒賞 | 高校名 |
|----------|---|
| 最優秀賞(1校) | 鹿児島県立市来農芸高等学校 |
| 優秀賞(2校) | 鹿児島県立鶴翔高等学校 宮城県小田農林高等学校 |
| 優良賞(3校) | 神奈川県立中央農業高等学校 広島県立西条農業高等学校 岐阜県立飛騨高山高等学校 |

枝肉評価部門 (優秀賞、優良賞に序列はなく、枝肉番号順に記載)

| 褒賞 | 高校名 |
|----------|---|
| 最優秀賞(1校) | 岩手県立水沢農業高等学校(枝肉番号64) |
| 優秀賞(2校) | 岩手県立水沢農業高等学校(枝肉番号65) 岐阜県立飛騨高山高等学校(枝肉番号85) |
| 優良賞(3校) | 栃木県立真岡北陵高等学校(枝肉番号76) 広島県立西条農業高等学校(枝肉番号92) 鹿児島県立市来農芸高等学校(枝肉番号97) |

審査委員特別賞 (新)

| 褒賞 | 高校名 |
|---------------------|--------------------|
| 審査委員特別賞 (取組評価部門) | 岐阜県立大垣養老高等学校 |
| 審査委員特別賞 (枝肉評価部門) | 栃木県立矢板高等学校(枝肉番号77) |



総合評価部門、取組評価部門で最優秀賞に輝いた市来農芸高校(鹿児島)のメンバー



市来農芸高校の取組発表の様子

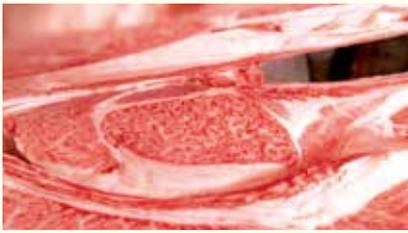
総合評価部門 最優秀賞
取組評価部門 最優秀賞
市来農芸高等学校(鹿児島)

枝肉評価部門で最優秀賞に輝いた水沢農業高校(岩手)のメンバー



枝肉評価部門 最優秀賞
水沢農業高等学校(岩手)

水沢農業高校が出品した枝肉



環境づくり、肉質向上などに関する取り組みを構成よく図表にまとめ、聞き手が理解しやすいように説明を行うなど、生き生きとした姿が伝わる優れた発表であることから、審査委員一同から非常に高い評価を得ました。

同校の上田平夏美さんは「日本となったことは、私の自信となりました。今後も牛との時間を大切に過ごし、将来、鹿児島島の農業に携わりたいです」と喜びを語りました。

枝肉評価部門の最優秀賞には、岩手県立水沢農業高等学校が輝きました。枝肉の厚みがあり肉量に富んでいること、光沢がよいことが評価されました。同校の伊藤龍雅さんは「受賞した水農春雨号は思い入れのある牛で、時間の空いている時にはブラッシングをやり、常にかわいがっていました。愛牛が最優秀賞を受けたことはとても光栄です」と語りました。

和牛甲子園は第2回に続き、多くのメディアからも注目され、各校の地元の応援の声も年々高まっています。全農は来年度以降も引き続き開催し、全国でがんばる高校生農業高校生を応援していきます。



枝肉勉強会で、出品した枝肉を見ながらレクチャーを受ける生徒たち

講演会では、牛生体のせりに参加できる家畜商の資格も取得されているダチョウ倶楽部の寺門ジモンさんと、笹木香利さんをアシスタントに迎え、『和牛の明日(ミライ)をたのむぞ! 高校牛児!!』という演題で高校生に向けて熱いメッセージをいただきました



酪農現場で働く女性から学ぶ

日本コカ・コーラと連携し出張授業

酪農部・岩手県本部

酪農部と岩手県本部は日本コカ・コーラ(株)と連携し1月23日、岩手県金ケ崎町の岩手県立農業大学校で5 by 20酪農の夢出張授業を行いました。

出張授業は今回で18回目。同校の学生やJA新しいわたの職員が参加し、岩手県葛巻町の酪農ヘルパーの木戸場真紀子さんと秋田県新林牧場の柴田瑞穂さんが講演しました。

木戸場さんは、酪農ヘルパーは酪農家の代行というだけでなく、酪農家の経営に寄り添える魅力ある職業であること、働く上で酪農家との信頼関係が重要であることを語りました。柴田さんは自らの牧場だけでなく、さまざまな牧場の搾乳方法を紹介。自分に合った経営を模索することが大切だと訴え、学生へ酪農現場の生の声を届ける機会となりました。



講演する木戸場さん(右)と岩手県本部の奥平さん



酪農の楽しさを語る柴田さん(右)とJA秋田しんせいの鈴木さん

News!

「やまがた雪やさい」取り組み本格化

雪国ならではの特色を生かし、ブランド確立めざす

山形県本部

山形県本部は、品質条件を満たした県内生産の雪下・雪室野菜の総称を、今年から「やまがた雪やさい」と名付け、ブランド化と生産・流通拡大に取り組んでいます。

「やまがた雪やさい」は、温度0度、湿度90〜100%という冬野菜に適した雪下・雪室で一定期間保管された野菜。今年はやキャベツ、ニンジン、ハクサイ、ダイコンの4品目が2月末まで出荷されています。購入者からは「雑味や青臭さが抜け、甘みが強く感じられる」と好評です。

この取り組みは2018年に始まり、昨年まで試験的な販売を行ってきました。今年から取り組みを本格化し、シールや段ボール箱、ミニのぼりなど専用の資材を新たに製作し、認知度向上を図りながらPRしていきます。



雪下で保管したハクサイを「やまがた雪やさい」ブランドで出荷

News!

「俺たちのれんこんまん」を開発

茨城特産のレンコン、銘柄豚がぎっしり 県本部と関係JAが連携

茨城県本部

茨城県本部は、特産のレンコンと銘柄豚「ローズポーク」をふんだんに使った中華まん「俺たちのれんこんまん」を開発JAと新たに開発しました。

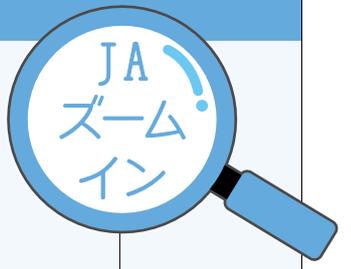
茨城県はレンコンの生産量が全国一を誇ります。そのシャキシャキとした食感とともに、県内銘柄豚の最高峰である「ローズポーク」のうま味たっぷりの肉汁が楽しめる逸品です。

1袋6個入り(1個80g)で、JATAウンや県内直売所などで販売し、大変好評を得ました。ほかほかと心と体も温まる、寒い季節にぴったりの商品に仕上がりました。



特産のレンコン、銘柄豚がぎっしりの中華まん「俺たちのれんこんまん」





もち麦栽培、生産者と二人三脚

地域の新たな特産品を目指す

JAみのり加東営農経済センターの管内では、水稲の転作作物としてシロガネコムギを栽培してきました。しかし、シロガネコムギは熟期が遅く、田植え準備に影響してしまうことが課題でした。

手探りでもち麦の栽培をスタート

そんな時、加東市に工場を置く(株)マルヤナギ小倉屋から「地元のもち麦を使って商品を作りたい」という申し出がありました。不安もありましたが、もち麦はシロガネコムギに比べ収穫時期が早いことから、2017年秋、生産者と共に試験栽培に踏み切りました。

加東市内の3集落6鈔に



もち麦の種まき



収穫適期講習会

種をまき、翌年5月に初めての収穫。栽培経過を検証し、課題を洗い出しました。結果を踏まえ、18年は4集落39鈔で作付け。種まき1ヵ月後には生産者らが圃場を巡回し、発芽率などを確認しました。19年5月には収穫適期の講習会も行い、いよいよ刈り取りを迎えました。62㌔を収穫し、農産物検査の結果、約85%が1等級に格付けされる上々の出来となりました。

JAみのり (兵庫県)



商品化した「兵庫育ちのもち麦 1kg」(左)と「スープで食べるもち麦豆乳」

商品化にこぎ着け もち麦栽培に全面転換

7月、全農を通じてもち麦を(株)マルヤナギ小倉屋へ出荷。「加東市産のおいしいもち麦」とプリントされたパッケージも完成し、11月から兵庫県内のスーパーなどで販売開始となりました。自分たちのもち麦が、商品となって販売されるという



直売所でもち麦を販売

目に見える成果に、喜びを覚える生産者も多くいます。19年産で種子が確保できたため、20年産からは市内のシロガネコムギをもち麦に全面転換することを決定。現在、12集落で栽培に取り組んでいます。これからは、単なる転作物ではなく、地域の新たな特産品に向け、品質向上、収量アップ、安定生産を今後の目標に掲げ、生産者と共に地域の特産として育てていきます。

| 概要 | 平成31年3月31日現在 |
|---------|--------------|
| 正組合員数 | 1万5840人 |
| 准組合員数 | 1万9816人 |
| 職員数 | 542人 |
| 販売品取扱高 | 52億9千万円 |
| 購買品取扱高 | 24億3千万円 |
| 貯金残高 | 4395億円 |
| 長期共済保有高 | 6815億円 |
| 主な農畜産物 | 水稲(山田錦) |

地域の特色ある
農畜産物・
加工品が勢ぞろい

3月10、11日東京で 第14回JAグループ 国産農畜産物商談会

全農と農林中央金庫は3月10、11日、東京・有楽町の東京国際フォーラムでJAグループの地域色あふれる魅力的な農畜産物と加工品が勢ぞろいする商談会を開きます。【営業開発部】

この商談会はJAグループの商品を実際の取引につなげていくための取り組みとして、回を重ねてきました。14回目となる今回は、「3つのS(ストーリー、スペシャル、サプライズ)」をテーマに全国からJAや生産者ら129団体が出展し、こだわりの地域産品を紹介します。来場者向けに商品戦略や商品開発に役立つ特別セミナーも実施。また、新企画として各産地の飲料、レトルトカレーを一堂で紹介する「地域産品掘り出しコーナー」なども企画しております。



第14回
JAグループ
国産農畜産物
商談会

昨年の
商談会の様子

商談会概要

| | | | |
|------|--|------|---|
| 開催日時 | 令和2年3月10日(火) 10:00~17:00 (開会セレモニー9:30から) | 開催場所 | 東京国際フォーラム 展示ホール E-1 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号 |
| | 11日(水) 10:00~16:00 | | |

詳細は
特設サイトへ



全農 ZEN-NOH

COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

毎週土曜日13時~ TOKYO FM系列38局ネット

2月29日放送のプレゼントは、北海道のブランド米「ゆめぴりか」(精米、5kg)を3名様に。「米の食味ランキング」では2011年産から連続「特A」を受賞。ほどよい粘りと豊かな甘みを存分にお楽しみください。

また、JAタウンギフトカード4500円分を1名様にプレゼントします。【広報・調査部】



応募は番組ホームページで受付中です。



応募締め切りは2月29日の放送でランキング1位の曲が発表されるまでです。

こちらの商品はJAタウンからご購入いただけます。

JAタウン <https://www.ja-town.com/shop/c/c1001/>
(ショップ名:ホクレングリーンネットショップ)



JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

大分県産直の駅しもごう(下郷農協)

大分県北部にある、小さな小さな農協「下郷農協」から「合鴨米のあまざけ」をご紹介します。

下郷農協の健康米生産組合員が合鴨農法で丹精込めて作った、中津市耶馬溪産のお米(農薬・化学肥料不使用)と米麹のみで造った「あまざけ」です。

砂糖や添加物は使っておらずビタミン類やアミノ酸がとても豊富です。

夏は冷やして冬は温めてと、一年中お楽しみいただけます。ノンアルコールなのでお子さまからご年配の方まで幅広くお飲みいただけます。

3月3日はひな祭りですので、下郷農協の「あまざけ」と、ひなあらで楽しいひと時を過ごしてみたいかがでしょうか? この機会にぜひご賞味ください。



合鴨米のあまざけ 900ml
2本セット……2000円

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちら <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

休刊のお知らせ
3月2日号は休刊いたします。
次号は3月9日号です。

私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心して結ぶ懸け橋
になります。